

所 信 表 明

私は、就任以来、「日本一の教育都市」で、「日本一幸せな子ども」を育てるという理念のもと、本市教育の基盤強化と未来を見据えた教育改革に取り組んでまいりました。この３年間の施策や組織改正等は、社会の急激な変化に対応し、子どもたちの学びと成長を確かなものとするための、本市教育行政全体の強靱化を目指したものです。

■ 一期目の振り返り

この３年間を振り返りますと、まずは、「多様性に対応した教育環境の整備」に取り組んでまいりました。いじめや不登校の増加に加え、特別な支援や医療的ケアを必要とする子ども、外国にルーツを持つ子どもなど、多様な背景を抱える子どもたちが増える中、従来の枠組みだけでは十分に応えきれない場面が生じておりました。

こうした現実を踏まえ、校内教育支援センター「Sola るーむ」の全校展開や環境整備、デジタルを活用した「学び方・教え方」改革、「いろどり学園」の開校のほか、組織体制の強化として新たに「いじめ対策係」等も設置するなど、誰一人取り残さない学びの保障に向けた基盤整備を進めてまいりました。

また、昨年度に 20 年目を迎えた本市独自の英語教育では、英語検定 3 級相当以上の力を身につけた生徒が 9 割に近づくなど過去最高となりました。国の調査でも今年度で 7 回連続日本一となり、この３年間で大きな成果を上げることができました。

さらに、教育 DX による学びと働き方の改革にも努めてまいりました。その一環として、スクールダッシュボードの活用をはじめ、データ利活用による教育改善、ICT の活用による教職員の業務負担軽減、生成 AI 時代に対応したデジタル学習基盤整備など、技術革新を「教育の質の向上」と「働き方改革」の両面に生かす取組を推進してまいりました。

その一方で、AI の進展が著しい今こそ、学校教育は「人間にしかできない価値」をはぐくむ場へと進化する必要があると認識しております。そこで、「地域とともにある学校づくり」にも力を注いでまいりました。コミュニティ・スクールの充実や、地域資源等を活用した体験活動の拡充は、学校を地域の未来づくりの中心に据える取組です。地域コミュニティのあり方が変化する中、学校・家庭・地域それぞれが持つ強みを生かし、協働して子どもをはぐくむ体制を築くことこそが、質の高い教育を支え、持続可能な地域社会を形成するうえで不可欠であるため、これらの取組を着実に推進してまいりました。

■ 二期目に向けた決意

私たちは今、歴史的な転換点に立っています。少子化や技術革新の加速など社会構造が大きく変化する中で、人工知能が人間の知能を超えともいわれる 2045 年が近

づく今、教育は『今の延長線上』では未来からの要請に応えられません。

次期学習指導要領が示す「エージェンシー」「学び続ける力」「協働」「探究」は、未来社会を生き抜くための重要な資質です。新たな教育に挑むには、教職員の心身の健康が不可欠であり、それが子どもの学びに直結することから、双方の幸福を保障することが肝要です。こうした認識のもと、私は二期目において、次の3つの柱を中心に「さいたま市教育」をこれまで以上に力強く推し進めてまいります。

◇ デジタル技術と人間性の調和による「学びの質の向上」

児童生徒用端末と教職員用端末、そして次世代型校務支援システムの連動により、本市の教育 DX はいよいよ「NEXT GIGA」へと突入します。この大規模な転換は、未来の教育基盤を築くための挑戦です。生成 AI を適切に活用し、教職員の業務効率化などによって生み出された時間を、子どもの探究的な学びや、対話を重視した協働的な学びの充実に活用し、学びの質の向上を実現してまいります。こうした施策により、予測困難な社会に対応し、未来を創り出す人材を育成してまいります。

◇ 誰一人取り残さない「包摂的な教育の実現」

子どもたちの多様化が進む中、福祉・医療・子育てなど分野横断の支援体制を一層強化し、すべての子どもが安心して学べる環境をさらに充実させます。また、多様性を受け入れるだけでなく、デジタルの力を生かして個性や強みへと転換する学びを推進し、子どもたちの可能性を最大限に引き出します。こうした取組を通じて、誰もが自分らしく未来を切り拓くことのできる包摂的な教育を実現してまいります。

◇ 地域と共に未来をつくる「子どもを核にしたコミュニティの形成」

子どもが学校運営協議会に参画し、子どもの声を学校運営や地域づくりに生かすという、これまで築き上げてきた仕組みを、今後は地域が子どもを育て、子どもが地域を支えるという循環へと、さらに深化させてまいります。これは民主主義の基盤であり、主権者教育の核心をなすものです。

こうした理念を実現するため、コミュニティ・スクールを要とした協働体制を一層強化し、子どもたちが自ら考え、主体的に行動する力をはぐくみながら、子どもを中心に据えた地域のつながりと支援の輪を着実に広げてまいります。

■ 結びに

私は、「日本一の教育都市」の実現に向け、これまでの改革をさらに前へ進め、子どもたちが夢や志、希望を持ち、自らの人生を舵取りする力をはぐくむため、学校・家庭・地域と共に歩む教育行政を、今後も不退転の覚悟で推進してまいります。

竹居 秀子